団体表彰

株式会社山のくじら舎

高知県安芸市

地域の歴史と文化を守り、工芸産地を興す

―木のおもちゃから古民家再生・活用へ―

山のくじら舎代表取締役社長 ● 萩野 和徳

山のくじら舎は、高知県東部に位置する安芸市で県産材を使った「木のおもちゃ」を製造販売している。起業する以前、私は大阪の新聞社に勤めていたが、収入があっても忙殺されて過ぎる毎日に疑問を感じ、両親の故郷である高知県安芸市で職人的な仕事をしながら田舎暮らしをしたいと考えるようになった。

大工や農業のアルバイトを転々としながら1年が過ぎたころ、妻・陽子の友人から「安心して子どもに持たせられる木のおもちゃがほしい」と相談を受けておもちゃを製作した。すると、予想を超える反響があり、2001年に会社を立ち上げることとなった。

早くからネット販売に注力し、間もなく夫婦二人では追いつけないほどの注文が入るようになる。新たに職人を雇用するにあたり、私は地元の女性たちが働ける場所にしたいと考えた。

当社がつくる木のおもちゃには、「我が子を想ってつくる」ような丁寧な手作業が必要だ。性別や経験ではなく、愛情を持って仕事に取り組んでもらえる人に来てもらえるよう、就労時間も休暇も各家庭の事情に合わせて自由に決められる雇用形態とし、ものづくりの経験がなくても個人の特性を生かして仕事ができる分業体制を確立した。すると、子育て中の女性や、ものづくりをしたい女性が集まってくれたのである。

彼女たちは経歴も人格も優秀だが、いずれも「働きたいけど、地元に働ける場所がなかった」と言っていた。働きやすい環境を整えることで彼女たちは能力も意欲も発揮し、製品の品質レベルを高く維持することができている。何より各家庭の子どもたちが、自身の母親が誇らしく働く姿を感じとれることは、ふるさとの未来づくりにつながると考えている。

地域の誇りを守り地域の未来につなげる

私は、人々がその地に住み続けるには、その地の歴史・文化・自然といった「誇り」を守らなくてはならないと考えている。田舎が単なる食料と資源の生産地となってしまえば、人々は地元に住む意味を失い、地域消滅の道が待っている。

そこで2017年より文化財保護プロジェクトを立ち上げた。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「安芸市土居廓中（どいかちゅう）」に建つ民家を保護・修繕し、社宅やシェアオフィスとして活用することを目指している。修繕には厳しい基準があり容易ではないが、先人たちが積み上げた町並みを保存することや、伝統の技術を持った職人たちに実践の場を提供し、技術を次世代へ継承していくことは意義のあることだと考えている。

また、森林率全国一位（84％）を誇る高知県において、間伐材や端材の活用は大変重要である。そこで、2019年より木を使ったノベルティグッズの製造を始めた。林業に直接関わらない企業にも木を使ってもらい、環境保全の取り組みを波及させたいという思いがあった。現在、大手企業を含む30社以上から依頼を受けている。

さらに新事業として、全国の職人の技を集めたペット用祭壇を商品化する予定だ。今後は日本が誇るさまざまな伝統工芸の技を継承し、各地のふるさとを守る一翼を担っていきたい。

「土居廓中」の古民家再生物件

間伐材を利用した、木製のノベルティ

高知県産材を活用した、
木製玩具「ままごとセット」